

令和 6 年 6 月 17 日現在

機関番号：32633

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2019～2022

課題番号：19H03952

研究課題名(和文) 周産期医療におけるダイバーシティフレンドリーヘルスケアプログラムの開発と評価

研究課題名(英文) Development and Evaluation of Diversity Friendly Healthcare Program in Prenatal care

研究代表者

五十嵐 ゆかり (IGARASHI, Yukari)

聖路加国際大学・大学院看護学研究科・教授

研究者番号：30363849

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,200,000円

研究成果の概要(和文)：周産期医療での外国人医療を向上させるため「ダイバーシティフレンドリーヘルスプログラム」を開発した。プログラムは2つのパートで構成され、第1パートは6つの講義、第2パートは5つの事例問題とフィードバックとした。効果的な教育方法を探索のため、冊子群とe-learning群の2群で評価した。参加者は、冊子群11施設(n=63)、e-learning群11施設(n=64)であった。両群ともにプログラム直後に得点が上昇し、3か月後の得点はわずかな減少であったことから、知識の定着に効果があったと言える。また、学習方法は冊子よりもe-learningが効果的な傾向であった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

外国人へのケアを向上させるための周産期領域のスタッフに向けた「ダイバーシティフレンドリーヘルスケアプログラム」という教育プログラムを冊子とe-learningで作成したが、プログラムを受けることで医療者の文化的能力、異文化間能力、コミュニケーションスキルに変化があり、効果があるという傾向がみられた。また学習方法は冊子よりe-learningの方が、効果が高い傾向であった。本プログラムは、特に外国人の受診が増加している病院の新人研修あるいは継続研修などで使用できる可能性があるため、さらに内容を精選し、それぞれの施設にあった使用方法を提案していく予定である。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study was to develop a Diversity-friendly Healthcare Program to improve immigrant care in obstetrics. The program contained two parts. The first part was six lectures, and the second part was five case studies and feedback. The program was conducted through e-learning and a booklet group to evaluate effective learning methods. Eleven hospitals were randomly assigned to each group which was the e-learning group (n=64) or the booklet group (n=63). Both e-learning and booklet methods could be said that it led to retained knowledge because the score elevated after the program and didn't decrease dramatically three months later. It also could be said that e-learning was more effective than the booklet as a learning method.

研究分野：ウイメンズヘルス・助産学、異文化看護学

キーワード：外国人 周産期 異文化看護 教育プログラム

様式 C-19、F-19-1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

2017年の在留外国人数は256万1,848人で史上最多を更新し続けている(法務省、2018)。その背景は、留学や技能実習生の増加という要因もある。さらに、在留資格別にみると永住者が74万9,191人と最も多く、定住化が進んでいることを示しており、医療にアクセスする外国人数の増加も見込まれる。この人口潮流をうけて、政府は外国人患者受け入れ拡大を掲げ、医療滞在ビザの新設、外国人医師や看護師の受け入れ、医療機関認証制度の創設、医療言語人材の育成、等を目標とし、政策が展開されてきた。さらに、厚生労働省は、外国人患者受け入れ体制に関する環境整備として、拠点施設の設置や院内体制整備、多言語対応、地域の受け入れ態勢の強化、情報発信を行ってきた。さらに、2018年に「地域における外国人患者受け入れ体制のモデル構築事業」を展開する。このように政策が進められているものの、医療における外国人の受け入れの課題は相変わらず「多言語対応」が圧倒的に多い。医療現場では長年「言語の違い」が大きな障壁となり、外国人に対する苦手意識から脱却できない。たとえ、外国人受け入れの体制が整備されても、医療スタッフが異なる言語に対する意識改革をしなければ、現場の状況が変わらない。

周産期における人的要因によって引き起こされる外国人妊産婦の健康障害は、1)切迫流産などへ内服ミスによる症状悪化、2)説明・理解不足による妊婦定期未受診、3)緊急時のインフォームドコンセント不足によるトラブル、4)産褥期の育児支援の不足からのマタニティブルーの発症、などを招き、母子が危険な状況に陥ることも多々ある(石ら、2004; Maeno et al, 2009; 橋本ら、2011)。しかし、外国人女性は言語の障壁を軽減する以上に、自分を患者として尊重する看護者を切望している(Igarashi et al, 2013)。つまり、同じ言語を話すことよりも看護者の態度が課題ということである。この結果をもとに、医療者のみならず医療にかかわるすべてのスタッフを対象とした教育が必要であると考えた。そのため、特にダイバーシティフレンドリーという共通認識をもち、外国人患者を多様な背景をもつ人々、と理解できることに注目したい。

先行研究においては、限定的な地域、コミュニティなどで外国人患者にインタビューすることはあっても広くその声を集積してこなかったため、外国人の肉声にも脚光を当て、そのニーズを医療現場に届けていく。特に周産期領域は他領域と比してトラブルが多いこと、また在住外国人女性の生殖年齢範囲(15-39歳)の人口比率は約51%で日本人の約27%よりも圧倒的に多いことから(厚生労働省、2017)、外国人医療における周産期領域への取り組みは喫緊の課題である。つまり、本研究に類する外国人受け入れのための教育プログラム開発の専門的な取り組みがされていないため、ダイバーシティフレンドリーに注目した医療に関わるすべてのスタッフへのプログラムが必要でなのではないかと考えた。

2. 研究の目的

周産期医療における『ダイバーシティフレンドリーヘルスケアプログラム』を開発し、周産期領域で実施、評価し、効果的な教育方法を探索するための検証を行うことであった。

3. 研究の方法

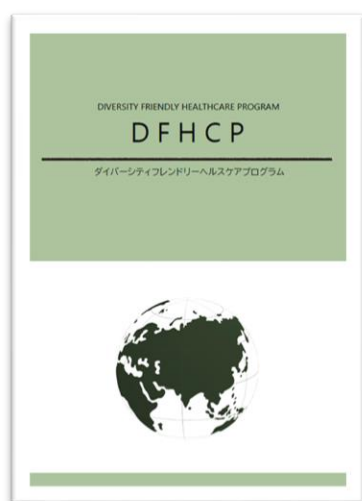
(1) 「ダイバーシティフレンドリーヘルスケアプログラム」の開発

周産期における多様な状況設定でさらに多領域のスタッフがかかわる場面やトラブルに発展した場面でのベターなコミュニケーション方法の演習などを入れた冊子とe-learningプログラム

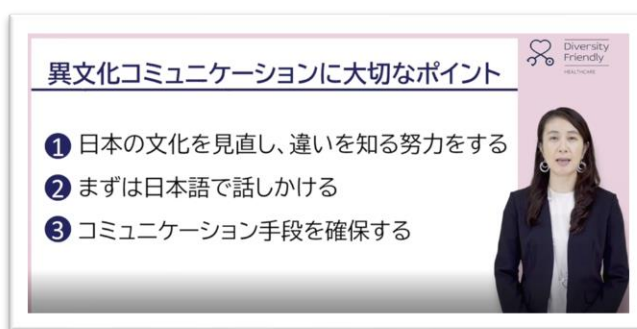
を作成した。

(2) 2群比較による「ダイバーシティ フレンドリー ヘルスケアプログラム」の実施と評価

看護師（看護師・助産師）を対象に、冊子群、e-learning 群の2群で比較した。対象施設は各群10施設とし、施設割り付けをした。介入方法は、冊子群には、冊子（約50ページ）を配布し、e-learning 群は専用のサイトにアクセスし、6つの講義と5つのケーススタディを視聴してもらった。データの収集時期は、冊子、e-learning プログラム提供の前テストとしての質問項目に回答してもらった。その後、1か月の間に冊子、e-learning プログラムを終了してもらい、プログラムが終了した人から、専用のWEBサイトにアクセスして、直後、3か月後に事後テストの質問項目に回答してもらった。評価項目として、1) 医療従事者文化能力測定尺度 Healthcare Provider Cultural Competence Instrument (HPCCI)、2) 医療者の異文化間能力尺度 Cultural competence of healthcare professionals (CCCHPs)、3) コミュニケーション・スキル尺度 ENDOCORES から、プログラムの効果を測定した。また、満足度から4) プログラムのプロセス評価を行った。



冊子



e-learning

4. 研究成果

データの収集期間は2021年12月～2022年10月であった。冊子群11施設、e-learning 群11施設の合計22施設が参加し、研究参加者は冊子群 (n=63)、e-learning 群(n=64)であった。

データ収集終了後にデータ収集を行った会社の不備により、すべてのデータが収集できなかったという問題が発生した。研究参加してくださった施設が22施設であり、検討を重ねたがデータの取り直しは難しい状況であった。そのため、統計の専門家にコンサルテーションを受けながら分析を進めた。

(1) 医療従事者文化能力測定尺度 Healthcare Provider Cultural Competence Instrument (HPCCI)

問題のあった 医療従事者文化能力測定尺度 Healthcare Provider Cultural Competence Instrument (HPCCI)に関しては、以下のような分析結果となった。尺度のそれぞれ5つの因子について、学習方法（被験者間要因、冊子群・e-learning 群の2水準）と測定時期（被験者内要因、事前・事後・3か月後の3水準）による2要因分散分析（混合要因）を行った。第1因子「文化的コンピ

テンスに対する意識・感受性」では、分散分析の結果、測定時期の主効果 ($F_{(2,250)}=34.8, p<.01$)、学習方法の主効果 ($F_{(1,125)}=4.2, p<.01$)、測定時期と学習方法の交互作用が有意であった ($F_{(2,250)}=3.4, p<.05$)。交互作用が有意であったことから単純主効果の検定を行った。その結果、測定時期が事後の水準において、e-learning 群は冊子群よりも有意に高いことが示された。第2因子「文化的コンピテンスに関する医療提供者の行動」では、測定時期の主効果が有意であった ($F_{(2,250)}=19.4, p<.01$)。多重比較を行ったところ、事前に比べて事後が有意に高く、また事前と比べて3ヶ月後が有意に高いことが示された。第3因子「患者中心のコミュニケーション」、第4因子「実践志向」の結果はいずれの主効果、交互作用も有意ではなかった。第5因子「文化的コンピテンスの自己評価」では、測定時期の主効果が有意であった ($F_{(2,250)}=9.2, p<.01$)。多重比較を行ったところ、事前に比べて事後が有意に高く、また事前と比べて3ヶ月後が有意に高いことが示された。また、問題あったのは第1因子であり、元の尺度では第1因子は11項目であるが今回は10項目の結果のみを提示することとし、「アンケート実施時に WEB 回答画面で選択肢表示に関する不備が発生し、正確な回答が得られなかったため集計・分析対象から除いた」と付記することとした。

(2) 医療者の異文化間能力尺度 (CCCHPs)

両群の平均点において、プログラム前(冊子 3.65 点/e-learning 3.73 点)から直後(冊子 3.70 点/e-learning 3.79 点)の得点が上昇した。直後から3か月後の得点(冊子 3.69 点/e-learning 3.74 点)は両群ともに減少したが有意差はなかった。この結果から本プログラムは、医療者の異文化間能力尺度において、両群ともにプログラム直後に得点が増加し、3か月後の得点はわずかな減少であったことから、効果があったと言える。

(3) コミュニケーション・スキル尺度 ENDOCORES

尺度のそれぞれ5つの因子について、学習方法(被験者間要因、冊子群・e-learning 群の2水準)と測定時期(被験者内要因、事前・事後・3か月後の3水準)による2要因分散分析(混合要因)を行った。分散分析の結果、学習方法の主効果が有意であり、また、e-learning 群の方が冊子群よりも有意に高かったのは、第1因子「自己統制」、第3因子「解読力」、第5因子「他者受容」であった。第6因子「関係調整」は測定時期の主効果が有意で、3ヶ月後は事前よりも有意に高かった。第2因子「表現力」、第4因子「自己主張」においては、いずれの主効果、交互作用も有意ではなかった。

(4) プロセス評価

全ての項目において e-learning 群の得点が高く、4項目の1) 講義内容の適切性 ($p=0.05$)、2) 事例内容の適切性 ($p=0.03$)、3) 分量や時間 ($p=0.01$)、4) 解説のわかりやすさ ($p=0.03$) において、有意差があった。自由記載においては、冊子群には、数日で読みきれぬ分量だった、文章も易しく、事例も適切でわかりやすかった、分量もちょうど良くスラスラ読むことができた、読み物としても楽しかった、グラフや図があり、説明文がわかりやすい、というコメントがあった。また、e-learning には、動画視聴で倍率を変更出来るのはとても良いと思った、適切な時間、

細かく分かれていて、一つ一つ整理しやすいと思った、一つのセッションの長さがちょうどよかった、少しずつ見れることがよかった、症例がわかりやすく良かった、というコメントがあった。

(5) 教育効果について

教育が認められた因子の確認としては、それぞれの尺度の因子の得点において、プログラムを受ける前よりも受けた後のほうが高くなり、かつ、3ヶ月後の再測定で低下しない因子を確認した。因子は、HPCCI 第2因子（行動）、第5因子（自己評価）、HPCCI 第6因子（重要性認識）、CCCHP 第1因子（意欲/好奇心）であった。この結果から、本プログラムはすべての因子について教育効果をもたらすものではないが、主たる教育目的に対して一定の効果があることが示されたと言える。

(6) 学習方法による教育効果の違いについて

e-learning 群のほうが冊子群よりも得点が統計的に有意に高かった因子は、CCCHP 第1因子（意欲/好奇心）、ENDOCOREs 第1因子（自己統制）、ENDOCOREs 第3因子（解読力）、ENDOCOREs 第5因子（他者受容）統計的な有意性が認められなかった他に因子についても、全体的に e-learning 群のほうが冊子群よりも得点が高い傾向が見られた。

学習方法として冊子と e-learning のいずれが学習方法として効果的であるかについては、いずれの学習方法にもメリットがあるともいえる。臨床現場で勤務する実践者が学習者である場合は、自らの学習スタイルにあわせて柔軟に選択できるようなプログラムの提供が良いのではないか、と言える。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 五十嵐ゆかり	4. 巻 65(1)
2. 論文標題 日本国内難民のセクシャル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツへの支援	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 保健の科学	6. 最初と最後の頁 30-36
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 五十嵐ゆかり	4. 巻 46(9)
2. 論文標題 在住外国人の出産と育児を支える	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 小児看護	6. 最初と最後の頁 1061-1067
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 五十嵐ゆかり
2. 発表標題 日本に在住されている海外の子どもへのケアの現状 在住外国人の出産・育児を支えるために
3. 学会等名 日本小児看護学会第32回学術集会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 渡邊恵美里, 五十嵐ゆかり
2. 発表標題 在住外国人妊産褥婦に対するケアを調整するための確認リストの開発
3. 学会等名 日本国際看護学会第6回学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Yukari Igarashi, Miyuki Oka, Kana Shimoda
2. 発表標題 Evaluation of aDiversity-friendly healthcare Program in Obstetrics
3. 学会等名 49th Annual Conference of the Transcultural Nursing Society
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 五十嵐ゆかり, 岡美雪, 下田佳奈
2. 発表標題 周産期におけるダイバーシティフレンドリーヘルスケアプログラムの開発と評価
3. 学会等名 グローバルヘルス合同大会2023
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 The Health Status of Ukrainian Women Evacuees in Japan: A Qualitative Study
2. 発表標題 Yukari Igarashi
3. 学会等名 27th East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS 2024) Conference
4. 発表年 2024年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

ママと赤ちゃんのサポートシリーズ http://www.rasc.jp/ 多様なヘルスケアのための外国人模擬患者協会 (AISPA) http://aispa.jp/cms/

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	明石 純一 (AKASHI Junichi) (30400617)	筑波大学・人文社会系・教授 (12102)	
研究分担者	岡 美雪 (OKA Miyuki) (40824199)	聖路加国際大学・大学院看護学研究科・助教 (32633)	
研究分担者	下田 佳奈 (SHIMODA Kana) (70803774)	聖路加国際大学・大学院看護学研究科・助教 (32633)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会	開催年 null年
--------	--------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------